

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103762		
法人名	株式会社プラス		
事業所名	グループホームあかり(岐阜苑)		
所在地	岐阜県岐阜市大洞1丁目3-4		
自己評価作成日	平成29年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170103762-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170103762-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市市賀大洞566-1
訪問調査日	平成29年10月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとり歩んでみえた道が違います。  
人生の大先輩であり、あかりでもその人らしく過ごして頂きたいと願っています。  
「あなたの笑顔がみたいから・・・」を理念にあげ、笑顔があふれるホームです。  
家庭的な雰囲気、家族のように一緒に楽しみ、話し合って生活をしていきたいと思っています。  
外出する機会を多くつくり、季節を感じ、五感で楽しみ、ゆったりと穏やかに過ごして頂けるよう取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この1年は、管理者交代も含め、内部体制充実の年度となった。利用者一人ひとりに合わせた支援の見直しを図り、ハード面でもソフト面でも自由に暮らせるように介護計画を立案し、支援内容を検討した。職員体制においては、ユニット間で職員の入れ替えを行い、ホームの経過年数で培った馴染みの関係が、ともしれば馴れ合いやマンネリに転化する懸念を一掃した。ほぼ1年を通じての改革となっているが、当初の戸惑いも薄れ、現在では取り組みの成果が大きく花開いた感がある。家族との信頼関係は厚く、協力体制も万全となり、何より利用者にとっては、以前よりも落ち着いた穏やかな生活、満足できる生活の実現がある。職員にとっても、以前は全く交流のなかったユニット間交流が進み、情報共有ができることでさらなる支援内容充実が図れている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	はじめに、職員にあかりの理念を伝え、地域密着型サービス意義も説明し、玄関・事務所に掲示しています。会議等でも話し合いをして、理念を大切にしています。	「あなたの笑顔がみたいから・・・」の精神は、職員の意識に浸透し、自分以外の「あなた」の笑顔が引き出す、自身の行動の実践に努めている。あなたの笑顔がみたいから何をするか、の意識は、日常支援の中にある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方から敬老の日にプレゼントを頂いたり、地域の行事に声をかけて頂いています。地域のイベントには席を用意して頂いています。また散歩中に近所の方と笑顔で挨拶しています。	地域からの利用者もおられ、地域密着型施設としての役割を考えた、継続的な交流がある。地域行事には、地域の一員として参加し、夏祭り等のホーム行事には多数の参加が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の集会に出席し、ホームの概要を説明したりしています。民生委員の方等地域の方がホームに定期的に来て下さいます。地域の高齢者の方が、気楽に遊びや相談に来て頂けるように声掛けをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでいる内容等を報告し、地域の方や包括の方々の意見を頂き、有意義な話し合いになるよう心がけています。地域の行事の日程も必ず教えて頂いています。	年6回の会議開催がある。地域包括支援センターの毎回の参加が得られ、地域高齢者介護の意見交換の場としても活用している。地域にとっては、地域の会合的な話し合いの場ともなっており、ホームを地域の一員として話し合いに参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活福祉課の方が、定期的に来苑し、巡回して頂いています。必要に応じて相談・報告・確認をし、質の向上に取り組んでいます。	地域包括支援センターの運営推進会議参加で、ホームの実情や運営の理解を進めている。それを踏まえて利用者紹介が得られ、共に高齢者介護を考える連携となっている。市の担当部署とは、運営の相談・報告を通じ、適切な助言と指導を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を実施し職員の共有認識を図っています。そして毎月、身体拘束委員会を開催し、気づかないうちに言葉をささげっていないか、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	毎月の職員会議で委員会を開催し、事例検討を行いながら、拘束をしない工夫を話し合っている。何が拘束に当たるのかの意識は高く、職員周知で拘束ゼロの支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実地し、虐待防止法に関して理解をし、虐待行為にあたる事がないよう、意識を十分にもち注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実地し、実際に利用されている方について説明をしたり、資料をもとに学ぶ機会をつくり、理解を深めるようにしています。必要の可能性がありそうな方については管理者で十分に話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者様やご家族様の不安を軽減出来るよう、ケアに関する考え方や取り組み、利用料金等、同意をして頂けるよう説明をしています。疑問点があれば理解して頂けるように丁寧に説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、自治会を開催し、入居者様が意見や不満を職員に気楽に話しやすい環境づくりを心がけています。玄関に意見箱を設置し記入出来るようにしています。半年に一度家族会を開催し、意見を反映させています。	個別対応のほか、年1回の家族会、運営推進会議参加では、他者との意見交換の機会がある。利用者は毎月の自治会で、全体の意向をまとめている。聴取した意見に対しては、迅速に対応し、運営や支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を行い、意見及び提案を聞いています。又、日頃から問いかけるよう心がけ、意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。	毎月全職員参加のミーティングを開催し、同日にケアカンファレンスを含むユニット会議、各委員会を行っている。活発な意見交換の場であり、情報収集と共有の場でもある。個々の意見や提案は全体で協議し、運営や支援内容に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう支援し、取得後は職場内で活かせる環境作りに努めています。個別に話を聞き、職員同士の人間関係を把握し、働きやすい職場を目指し、支援しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、事業所内外での研修に受講出来るようにしています。それらの研修報告は、ホームの勉強会で発表してもらい、全職員が共有できるように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会が定期的で開催され、その中で研修や討論会により質を向上させるよう努めています。そこで知り合った近隣の事業所同士、交流を深め話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、入居によって生活環境が変わる不安な気持ちを理解し、向き合い、入居者様の思いを傾聴するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を通じて、ご家族様の今までの苦労や不安な気持ちをゆっくり傾聴し、理解できるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけ相談を受けることにより、信頼関係を築きながら、必要な支援を見極めます。場合によっては、他のサービス事業所を勧める等、適切なサービス利用を受けられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族」のような関係が築けるよう、一緒に買い物に出掛けたり、家事をして共に支え合い生活出来る関係づくりをしています。人生の先輩として尊敬をし、沢山学ばせてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	喜びも悲しみも共有し、ご家族様と共に支えていく努力をしています。入居者様とご家族様と一緒に参加して頂ける行事も提供しています。笑顔が見られるような関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前面談の時に話し合い、大切にしてきた馴染みの場所や友人等、継続的な交流が出来るよう相談しながら対応しています。	職員のユニット間異動の成果で、新しい発見や意向把握があり、利用者の支援充実につながっている。馴染みの場所や行きたい所を外出先に盛り込んだり、やってみたいことのチャレンジにも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方には、特に職員が関わりを多く持ち、仲介し、良い関係を築けるようにしています。心身の状態や気分で感情の変化が大きい為、個別に話を伺い、楽しく過ごせるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さるご家族様には、近況をお聞きし、相談を受けています。又、近くに来たので寄りましたと、ホームを訪ねて下さるご家族様もみえます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでも気軽に思いを言える関係を築いています。入居者様の思いや希望を、日々の会話や表情からも把握しています。どのように暮らすことが最良なのか、ご家族様を交えて検討しています。	毎月の利用者自治会では、自治会長が全体の意向をまとめ、職員と話し合っている。食べることと出かけることが主な希望になることは否めないが、出された意向には真摯に向き合い、実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時、生活歴や価値観、地域との関わり等、情報を得て把握しています。沢山の情報を得る事で入居者様を理解し支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解したうえで、職員の申し送りを密にし、職員が声を掛け合いながら、総合的に把握するよう努め対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様と話し合い、意見を出し合いその意見を反映させるよう介護計画を作成しています。アセスメントを含め、月に一度カンファレンスを行い、スタッフと話し合いもしています。	毎月のモニタリングを実施し、利用者の状態と状況を把握している。3ヶ月ごとに目標の検証を行い、達成度を検証している。更新時にはサービス担当者会議を開催し、本人と家族も交えて、意向重視で支援内容を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、個別の介護記録ファイルに、日々の様子や入居者様の言葉等を詳しく記録し、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の日々変化する状況に応じて臨機応変に対応しています。時にはホームにて、ご家族様と一緒に食事やおやつを召し上がり、楽しいひと時を過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して暮らし続けられるよう、民生委員の方との意見交換や消防署職員による避難訓練を行っています。また、運営推進会議に包括の方が参加して下さることにより、情報交換も出来ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月に2回の往診を受けています。緊急時は受診をし、適切な指示を受けて対応しています。入居後も今までのかかりつけ医で医療を受けられる方は、希望に添った対応をしています。	協力医の月2回の往診を支援している。以前からのかかりつけ医の継続も可能であり、本人と家族が納得できる医療受診が可能である。専門医等の協力医以外の医療受診は原則家族対応となる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回行われています。入居者様の健康管理をして頂き、アドバイスを受けています。併設の小規模にも看護師が勤務している為、状態変化にも対応できる体制が取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された時は、出来る限りお見舞いに行き洗濯物の管理、環境の変化で認知症が進まないように声掛けをし、話を傾聴しています。病院の医師、看護師からも経過説明を受け、速やかな退院支援に結びつけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要と思われる方には、重度化した場合や終末期になった場合について、ご家族様と話し合いをし、安心して納得した最期を迎えられるように、取り組んでいます。	ホームでできる限りの支援を提供することを方針としている。最期までホームで暮らしたいと希望する利用者・家族は多く、本人の状態を鑑み、最善の支援を選択できるように、都度の話し合いを行っている。家族の希望があれば、ホームへの宿泊も可能であり、家族が後悔しないための支援にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにて救命救急講習を設け職員には、普通救命講習終了証を所持しています。緊急時対応マニュアルを整備し勉強会を行い、周知徹底を図っています。ホームにAEDを設置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て年2回、避難訓練を行っています。災害時のマニュアルを整備し、勉強会も行っています。また、地域の協力体制について、自治会や民生委員の方に協力を呼びかけています。	年2回の避難訓練を実施し、消防署協力の元、避難経路や避難方法の指導を受けている。職員の意識も高く、委員会を中心に勉強会の実施もある。地域防災会議に参加し、地域に貢献できること、地域に助けをもらいたいこと等を情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊厳を持ち、誇りやプライバシーを配慮した言動を心がけています。 個人情報の取り扱いに関しては、細心の注意を払って対応しています。	人対人のお付き合いの中で、常識となる対応を考え、支援を実践している。自分より目上であることを理解すれば、言葉遣いや対応も、おのずと敬いの気持ちが基本となる。接遇研修の実施もあり、適切な接遇は、支援提供の基本となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が気軽に思いが言えるような環境作りになっています。ご自分から意見が言えない方には、こちらから声を掛けて話を伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様は一人ひとり、その日その日、過ごし方は違います。体調を配慮しながら、一人ひとりに合わせ、気持ちを大切に過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに美容師を呼びカットを提供しています。時にはお化粧やマニキュア等を行いおしゃれをして頂けるよう心がけています。着替えは、自分の意思で衣類を決めて頂けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを相談したり、下ごしらえ、盛り付け等、一緒に出来るような雰囲気づくりをし、楽しく食事をして頂けるようにしています。	冷蔵庫を開け、材料を見ながら利用者とその日その時の献立を決めている。一汁三菜とデザートを基本に、目にも満足できる食事を提供している。職員も同じ物を食し、和気あいあいとテーブルを囲んでいる。外食・行事食の楽しみもあり、食が利用者の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は一人ひとり把握し、確認しています。栄養バランスは大切ですが、食事量が少ない方には特に、好きなもの食べやすいものを提供しています。水分は食事以外にもいつでも飲んで頂けるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをして頂いています。できない方には、お手伝いをし、嚥下障害による肺炎の防止にも努めています。訪問歯科と提携しており、口腔ケアや治療も受けられるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、一人ひとりに合わせて誘導することにより、トイレでの排泄が出来るように支援しています。また、歩行困難な方においても、職員二人介助にて、トイレでの排泄を行って頂けるようにしています。	トイレ排泄を基本に支援している。本人の尊厳に配慮し、リハビリパンツを活用して目に見える失敗を防ぎ、声掛けと時間誘導で失敗のない支援を目指している。二人介助が必要な場合も、日中はトイレで排泄してもらい、尊厳を支えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の動きを良くする為、腹筋を鍛え排便する力をつけて頂く為にも、毎日散歩・体操等を行い、身体を動かすよう誘っています。 水分、食物繊維、ヨーグルト等を多く摂取するよう心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的には決まっていますが、入居者様の状況・希望でいつでも入浴して頂けるようにしています。	利用者の日中活動の活発を考え、入浴は隔日に支援している。清潔保持の観点から、週2回以上の入浴を管理している。現在はさしたる拒否もなく、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活出来るように促していますが、一人ひとりの身体状況、ペースに合わせて、休息できる環境にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効果、副作用等ファイルに保管をし、職員全員が理解しています。 薬の処方が変更された場合は、職員の申し送り、記録等いつも以上に注意をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方、畑仕事が得意な方、外出が好きな方等、一人ひとりの力を発揮し、楽しみながら張り合いをもって生活して頂けるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日希望にそった道での散歩に出掛けています。個別に話を伺い、希望の外出・外食先に出掛けられるよう努めています。 季節に合わせた行事、散歩、買い物、外食等、日常的に外出して頂いています。	日課の散歩、個別の外出、小グループ外出や行事外出等々、利用者が外に出る機会を多く作っている。家族外出も多く、馴染みの場所や人との関係継続もある。支援の基本に、外出月2回と外食月2回の決まりがあり、職員も一緒に、楽しみながら外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームが管理しています。一人ひとりの状況に応じて、買い物等では自分で支払って頂けるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は、希望されればいつでも使用して頂ける体制です。手紙のやり取りは職員がお手伝いさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは窓が一面にあり、開放感があり外を眺めながら居心地良く過ごせるような家庭的な雰囲気を作っています。	2ユニットがそれぞれの雰囲気をもち、中で暮らす利用者もそれぞれの雰囲気に合ってくるようである。落ち着いた雰囲気と明るく活発な雰囲気とに分かれるが、どちらも利用者の安全を考え、無駄な物を共有空間に出さない、すっきりとした環境整備がある。採光・照明・空調等、何ら問題はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを2つ設置し、入居者様同士のコミュニケーションが取れるようにしてあります。場合によっては独りでゆっくり座って過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んで頂き、ホームでの生活に違和感のないよう心掛けています。	できる人は自分で掃き掃除や拭き掃除を行っている。自分の居場所としての認識も高く、本人自らが整理整頓に励み、換気も行って環境整備している。馴染みの物品の持ち込みのほか、ホームでの暮らしで増えた物品を思い思いに配置し、居心地の良い空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対策は取ってあります。トイレ、浴槽には手すりがついています。一人ひとりの理解できる範囲を把握し、必要な部分の手助けをし、その方に合わせた対応を心がけています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170103762		
法人名	株式会社プラス		
事業所名	グループホームあかり(岐阜苑)		
所在地	岐阜県岐阜市大洞1丁目3-4		
自己評価作成日	平成29年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170103762-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170103762-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成29年10月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人ひとり歩んでみえた道が違います。  
人生の大先輩であり、あかりでもその人らしく過ごして頂きたいと願っています。  
「あなたの笑顔がみたいから・・・」を理念にあげ、笑顔があふれるホームです。  
家庭的な雰囲気、家族のように一緒に楽しみ、話し合っ生活をしていきたいと思っています。  
外出する機会を多くつくり、季節を感じ、五感で楽しみ、ゆったりと穏やかに過ごして頂けるよう取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	はじめに、職員にあかりの理念を伝え、地域密着型サービス意義も説明し、玄関・事務所に掲示しています。会議等でも話し合いをして、理念を大切にしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方から敬老の日にプレゼントを頂いたり、地域の行事に声をかけて頂いています。地域のイベントには席を用意して頂いています。また散歩中に近所の方と笑顔で挨拶しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症お出掛けサポート訓練町に出席し、ホームの概要を説明したりしています。地域の高齢者の方が、気楽に遊びや相談に来て頂けるように声掛けをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組んでいる内容等を報告し、地域の方や包括の方々の意見を頂き、有意義な話し合いになるよう心がけています。地域の行事の日程も必ず教えて頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活福祉課の方が、定期的に来苑し、巡回して頂いています。必要に応じて相談・報告・確認をし、質の向上に取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を実施し職員の共有認識を図っています。そして毎月、身体拘束委員会を開催し、気づかないうちに言葉をささげっていないか、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を实地し、実際に利用されている方について説明をしたり、資料をもとに学ぶ機会をつくり、理解を深め、虐待が見過ごされる事の無いよう話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実地し、実際に利用されている方について説明をしたり、資料をもとに学ぶ機会をつくり、理解を深めるようにしています。必要の可能性がありそうな方については管理者で十分に話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者様やご家族様の不安を軽減出来るよう、ケアに関する考え方や取り組み、利用料金等、同意をして頂けるよう説明をしています。疑問点があれば理解して頂けるように丁寧に説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、自治会を開催し、入居者様が意見や不満を職員に気楽に話しやすい環境づくりを心がけています。玄関に意見箱を設置し記入出来るようにしています。年に一度家族会を開催し、意見を反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を行い、意見及び提案を聞いています。又、日頃から問いかけするよう心がけ、意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう支援し、取得後は職場内で活かせる環境作りに努めています。個別に話を聞き、職員同士の人間関係を把握し、働きやすい職場を目指し、支援しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、事業所内外での研修に受講出来るようにしています。それらの研修報告は、ホームの勉強会で発表してもらい、全職員が共有できるように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会が定期的で開催され、その中で研修や討論会により質を向上させるよう努めています。そこで知り合った近隣の事業所同士、交流を深め話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、入居によって生活環境が変わる不安な気持ちを理解し、向き合い、入居者様の思いを傾聴するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を通じて、ご家族様の今までの苦労や不安な気持ちをゆっくり傾聴し、理解できるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけ相談を受けることにより、信頼関係を築きながら、必要な支援を見極めます。場合によっては、他のサービス事業所を勧める等、適切なサービス利用を受けられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族」のような関係が築けるよう、一緒に買い物に出掛けたり、家事をして共に支え合い生活出来る関係づくりをしています。人生の先輩として尊敬をし、沢山学ばせてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族」のような関係が築けるよう、一緒に買い物に出掛けたり、家事をして共に支え合い生活出来る関係づくりをしています。人生の先輩として尊敬をし、沢山学ばせてもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前面談の時に話し合い、大切にしてきた馴染みの場所や友人等、継続的な交流が出来るよう相談しながら対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方には、特に職員が関わりを多く持ち、仲介し、良い関係を築けるようにしています。心身の状態や気分などで感情の変化が大きい為、個別に話を伺い、楽しく過ごせるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さるご家族様には、近況をお聞きし、相談を受けています。又、近くに来たので寄りましたと、ホームを訪ねて下さるご家族様もみえます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでも気軽に思いを言える関係を築いていません。入居者様の思いや希望を、日々の会話や表情からも把握しています。どのように暮らすことが最良なのか、ご家族様を交えて検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時、生活歴や価値観、地域との関わり等、情報を得て把握しています。沢山の情報を得る事で入居者様を理解し支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解したうえで、職員が声を掛け合いながら、出来る事は行って頂きながら総合的に把握するよう努め対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様と話し合い、意見を出し合いその意見を反映させるよう介護計画を作成しています。アセスメントを含め、月に一度カンファレンスを行い、スタッフと話し合いもしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、個別の介護記録ファイルに、日々の様子や入居者様の言葉等を詳しく記録し、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の日々変化する状況に応じて臨機応変に対応しています。 時にはホームにて、ご家族様と一緒に食事やおやつを召し上がり、楽しいひと時を過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して暮らし続けられるよう、民生委員の方との意見交換や消防署職員による避難訓練を行っています。また、運営推進会議に包括の方が参加してくださることにより、情報交換も出来ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月に2回の往診を受けています。緊急時は受診をし、適切な指示を受けて対応しています。入居後も今までのかかりつけ医で医療を受けられる方は、希望に添った対応をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回行われています。入居者様の健康管理をして頂き、アドバイスを受けています。併設の小規模にも看護師が勤務している為、状態変化にも対応できるよう体制が取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された時は、出来る限りお見舞いに行き洗濯物の管理、環境の変化で認知症が進まないように声掛けをし、話を傾聴しています。病院の医師、看護師からも経過説明を受け、速やかな退院支援に結びつけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要と思われる方には、重度化した場合や終末期になった場合について、ご家族様と話し合いをし、安心して納得した最期を迎えられるように、取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにて救命救急講習を設け職員には、普通救命講習終了証を所持しています。緊急時対応マニュアルを整備し勉強会を行い、周知徹底を図っています。ホームにAEDを設置しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て年2回、避難訓練を行っています。災害時のマニュアルを整備し、勉強会も行っています。また、地域の協力体制について、自治会や民生委員の方に協力を呼びかけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊厳を持ち、誇りやプライバシーを配慮した言動を心がけています。 個人情報の取り扱いに関しては、細心の注意を払って対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が気軽に思いが言えるような環境作りに心がけています。ご自分から意見が言えない方には、こちらから声を掛けて話を伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様は一人ひとり、その日その日、過ごし方は違います。体調を配慮しながら、一人ひとりに合わせ、気持ちを大切に過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに美容師を呼びカットを提供しています。時にお化粧やマニキュア等を行いおしゃれをして頂けるよう心がけています。着替えは、自分の意思で衣類を決めて頂けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを相談したり、下ごしらえ、盛り付け等、一緒に出来るような雰囲気づくりをし、楽しく食事をして頂けるようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は一人ひとり把握し、確認しています。栄養バランスは大切ですが、食事量が少ない方には特に、好きなもの食べやすいものを提供しています。水分は食事以外にもおやつや、散歩入浴後にも飲んで頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアをして頂いています。できない方には、お手伝いをしています。嚥下障害による肺炎の防止にも努めています。訪問歯科と提携しており、口腔ケアや治療も受けられるようにしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、一人ひとりに合わせて誘導することにより、トイレでの排泄が出来るように支援しています。また、歩行困難な方においても、職員二人介助にて、トイレでの排泄を行って頂けるようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の動きを良くする為、腹筋を鍛え排便する力をつけて頂く為にも、毎日散歩・体操等を行い、身体を動かすよう誘っています。 水分、食物繊維、ヨーグルト等を多く摂取するよう心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的には決まっていますが、入居者様の状況・希望でいつでも入浴して頂けるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活出来るように促していますが、一人ひとりの身体状況、ペースに合わせて、休息できる環境にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効果、副作用等ファイルに保管をし、職員全員が理解しています。 薬の処方が変更された場合は、職員の申し送り、記録等いつも以上に注意をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方、畑仕事が得意な方、外出が好きな方等、一人ひとりの力を発揮し、楽しみながら張り合いをもって生活して頂けるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日希望にそった道での散歩に出掛けています。個別に話を伺い、希望の外出・外食先に出かけられるよう努めています。 季節に合わせた行事、散歩、買い物、外食等、日常的に外出して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームが管理しています。一人ひとりの状況に応じて、買い物等では自分で支払って頂けるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は、希望されればいつでも使用して頂ける体制です。手紙のやり取りは職員がお手伝いさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心感、生活感のある空間になっています。居心地良く過ごせるような家庭的な雰囲気を作っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを2つ設置し、入居者様同士のコミュニケーションが取れるようにしてあります。場合によっては独りでゆっくり座って過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んで頂き、ホームでの生活に違和感のないよう心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対策は取ってあります。トイレ、浴槽には手すりがついています。一人ひとりの理解できる範囲を把握し、必要な部分の手助けをし、その方に合わせた対応を心がけています。		